

令和4年度 教育事業 ボランティア養成事業  
「やる気！元気！ボランティア！」

1 趣旨

ボランティア活動に必要な知識や技能の向上を図り、ボランティアとしての資質を高め、広く社会でボランティア活動に取り組める青少年を育成する。

2 日程

(1) 期 日 令和4年7月9日（土）～10日（日） 1泊2日

(2) 参加者 大学生 37名（男性25名、女性12名）

(3) 研修内容

7月9日（土）		7月10日（日）	
8：45	受付	6：00	起床・身辺整理
9：00	開校式	7：30	朝食（食堂）
9：30	講義「青少年教育施設の現状と運営」	9：00	講義・実習「安全管理（救命救急講習）」
10：45	講義「ボランティア活動の意義」	12：00	
12：30	昼食	13：00	昼食
14：00	講義・実習「青少年教育施設におけるボランティア活動」	14：40	講義「青少年教育について」
15：30	実習「ボランティア活動の技術」	15：20	能登事業 PR タイム
20：00	入浴	16：00	ボランティア制度の説明
22：00	就寝	16：30	閉校式 解散

3 成果と課題

(1) 活動プログラムの実際

- ① サポートボランティア3名に事業運営に携わってもらい、アイスブレイクや当施設での活動や野外炊飯指導を行ってもらった。
- ② ボランティア活動の技術では野外炊飯を行った。危険予知トレーニングを行い、ただ野外炊飯をするだけではなく、ボランティアとして事業に参加したことを想定して、参加者が意見交換しながら実施した。

(2) アンケート結果について

- ① 教育事業アンケートの満足度（「満足」と「やや満足」の評価）は、事業全体、事業のプログラムの2項目において97%、事業運営の1項目において95%、職員の指導・助言や対応の1項目において100%であった。
- ② アンケートの記述には「様々な学校の人と交流できてよかった」「様々な観点・形態でボランティアについて学べた」「講義と実習が交互でよかった」という意見があった。

(3) 成果と課題

① 成果

- ・今年度の広報も昨年度に引き続き、県内の国立大学の学生課に学生用サイトへの当事業の情報掲示を依頼した。また、法人ボランティアが所属する学生ボランティア団体へも情報提供した。その結果、募集定員を超える応募があった。
- ・サポートボランティアの参画によって、参加者が積極的に質問する姿が見られた。アンケ

ートでは、「サポートボランティアの言葉がよりボランティア活動をしたくしてくれた」という意見もあった。また、今後のボランティア活動をしていく上での新たなネットワーク作りの場にすることができた。

- ・講義や実習中、参加者間の距離を確保しながら実施することができた。また、講師の協力も得て、各種新型コロナウイルス感染症対策を講じながら事業を実施することができた。

## ②課題

- ・定員を超える応募があったものの、開催までの間に10名以上がキャンセルとなったため、募集の時期を見直す必要がある。
- ・「班編成にもう少し配慮が欲しかった。自分以外全員同じコミュニティは、交流の輪を広げるには難しすぎた。」との声があった為、参加者の所属もより考慮した上で班編成を行い、参加者間のコミュニケーションが広がりを持つ環境を作る必要がある。
- ・参加者が、今後当施設でのボランティア活動に関わってもらえるよう、引き続き事業案内等の情報発信をし、学んだことを実践できる機会を設けること必要である。

## 4 事業の様子



【サポートボランティアとの様子】



【レクリエーションの様子】



【野外炊飯の様子】



【講義の様子】



【救命救急講習の様子】